

歌舞伎町・新宿をつくった3人の「喜」 (峯島喜代・鈴木喜兵衛・尾津喜之助)

歌舞伎町・新宿の街づくりには様々な人物がかかわっていますが、ここでは代表的な役割を果たした3人の人物を取り上げてみました。その名前には、くしくも3人とも「喜」という字が使われており、それ故歌舞伎町は歓(喜)びの街に発展したのでしょうか。(余談ですが、江戸時代、内藤新宿の開設に尽力した「高松喜兵衛」にも、「喜」の字があります。)

歌舞伎町の大地主・女傑 峯島喜代

【略伝】

- 1833年(天保4年)～1918年(大正7年)。峯島家5代目当主。大正を代表する女実業家。女傑(「大正評判女番付」で東の横綱)
- 1911年(明治44年)に現歌舞伎町1丁目の土地(大村の森)を購入。池を埋立て、宅地化(尾張屋の原)。工事の際、大量発生した蛇を鎮めるため、上野不忍池の弁財天を分社として勧請。「歌舞伎町弁財天」となった。
- 晩年、女学校設立のため50万円(現在の10億円)を東京府に寄付。土地を無償貸付。大正9年、府立第5高等女学校が開校した。

峯島喜代の肖像 大正評判女番付(抜粋)

(出典)国立国会図書館デジタルコレクション



尾張屋銀行の奉納石柱



歌舞伎町弁財天



(出典)尾張屋土地ホームページ

歌舞伎町の生みの親 鈴木喜兵衛

【略伝】

- 1892年(明治25年)～1967年(昭和42年)。終戦時の角筈一丁目北町(現在の歌舞伎町)の町会長。食品製造販売会社を経営
- 終戦時、疎開地日光で「復興計画」を立案。「道義的繁華街」の建設を目指し、民間主導のまちづくりを、信念と情熱をもって推進。昭和23年、町名を「歌舞伎町」と命名(名付親は石川栄耀氏)。昭和25年に「博覧会」を開催するも大赤字。私財を全て擲つ。
- この間、都電の靖国通りへの移設、西武新宿駅の誘致などに尽力し、昭和31年のコマ劇場の開設で、街づくりは完成した。

鈴木喜兵衛の肖像



(出典)鈴木喜兵衛「歌舞伎町」

歌舞伎町建設記念碑



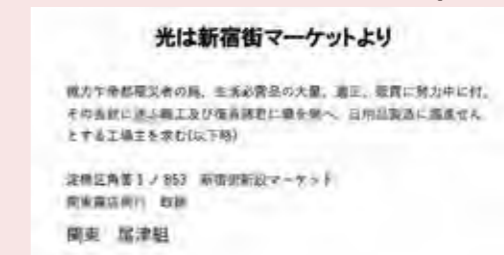
(出典)鈴木喜兵衛「歌舞伎町」
鋤入れ式(昭和20年代)

光は新宿より 尾津喜之助

【略伝】

- 1897年(明治30年)～1977年(昭和52年)。的屋の親分。新宿の闇市形成に大きな役割を果たす。
- 敗戦直後、新宿通り沿いに、「光は新宿より」をキャッチフレーズに、日本初の闇市「青空マーケット」を開設。多くの人押し寄せた。この間、無料診療所や無料葬儀社など、弱者救済活動を実施
- 昭和21年、不法占拠の明渡しや脅迫罪などで裁判になり、有罪に。釈放後の昭和27年、東口に龍宮マーケットを開設した。

「光は新宿より」の新聞広告(抜粋)



(出典)毎日新聞
(昭和20年9月9日)

新宿マーケット(昭和20年10月頃)



(出典)尾津豊子「光は新宿より」

龍宮マーケット(昭和20年代)



(所蔵)新宿歴史博物館

※この記載は反社会的活動を讃えるものではありません。(編集者注)